

夏休み、多世代交流で賑わい

◆あつたかふれあいセンターこぶし(7月25日)

「晩御飯はいつもひとり。たまには賑やかに食べたい」の声を聞き企画した「一日居酒屋こぶし」。



集落活動センターのお母さんたちの手料理に会話も弾み楽しい時間となりました。

◆あつたかふれあいセンターにしきの広場(8月4日)

毎月第1と第3土曜、にしきの広場はなないろカフェとなり地域内外から来た多くの人で賑わっています。地域の情報も助け合いもここで。初めて来た人も毎



り来ていた人も毎

一緒に交流しながら地域の拠点となる取組をしています。

◆あつたかふれあいセンター北郷(8月4日)

「子どもに浴衣を着せてあげたい」「私も着たいけど、帯を結ぶ

ことが難しい」子育て世代のお母さんの要望に、地域の先輩が応え実現した「浴衣着付け講座」に18人が参加しました。今年の花火大会は、浴衣を着て出かけることができそうです。



◆あつたかふれあいセンターこぶし(8月4日)

夏休み工作教室



に地域の親子6組が参加しました。講師は地元の保護者。牛乳パックを使った自分だけのオリジナル小物入れが完成。

◆あつたかふれあいセンターさが(8月5日)

猛暑が続く今年の夏。総合センターで「そうめん流し」が行われました。準備した竹は6m。一番後ろの人にもそうめんが届くように…。子どもだけでなく大人も楽しんだ1日でした。



◆子育てサークル「ふれあい食堂スマイル」(8月4日)

昨年の夏、各地で開催された子ども食堂。今年の夏は、子育てサークル主催で、子どもたちも一緒にドライカレーを作りました。準備も配膳も参加者全員で。近くの高齢者施設の利用者にも来ていただき、多世代の交流となりました。兄弟姉妹のように元氣いっぱい遊ぶ子どもの姿にみんなが笑顔になりました。



子ども食堂「ききょう」

大方高校の生徒が企画し、献立から調理、配膳まで行う子ども食堂「ききょう」。桔梗の花言葉に「友の帰りを待つ」の意味があること、ふるさとへの「帰郷」をかけあわせ、命名したとのこと。ひとりの食事

は、おいしくない。食事の大切さを考え、伝えながら取り組んでいます。そんな生徒の思いをあつたかふれあいセンターにしきの広場と地域のボランティアが応援。毎月第3水曜日の午後5時から午後6時、あつたかふれあいセンターにしきの広場で開催されています。

第68回社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の力を推進させる取組を進めることを目的に町内保護司の皆さんから大西町長に内閣総理大臣メッセージが伝達されました。(7月3日)

